

授業のねらい

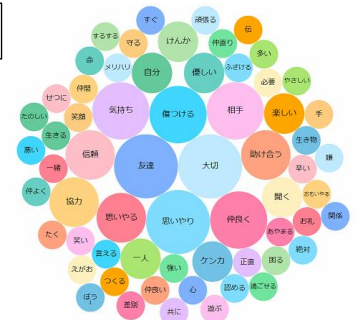
○料金不足のはがきを送ってきた友達に対し、そのことを伝えるかどうかを悩むひろ子の姿を通して、友達を大切にすることについて考えさせ、友達のことをよく理解し、信頼し、助け合おうとする判断力を育てる。

タブレット端末活用の工夫／教育データ活用の工夫

①AIAI モンキー「わくわくの実」と授業後の自分の比較

授業の前に AIAI モンキーの「わくわくの実」を用いて、「友達を大切にするとはい」のアンケートを実施した。わくわくの実の資料ではあるが、予め自分の考えをもち、明確にさせておくことで、授業の前後での自己の考えを比較することができ、考えの広がりや深まりを感じられるようにした。

図 1



②MY ハートメーター（ムーブノート）の活用

ミライシード「ムーブノート」では、自分の考えに合う位置に1か所スタンプを押し、その集計結果を電子黒板に提示することで、学級全体の思考の様子が分かるようにした。中心発問の時間を確保するとともに、授業内で対話がしやすい環境を作るために、スタンプを押した位置の理由は書かせずに、班で話し合せて意見を交流させた。スタンプ集計の範囲指定をあらかじめ設定して置き、表示する際に児童がスタンプを置いた場所に応じて色分け（赤：伝える 黄：伝えない 緑：どちらとも決められない）されるようにした。

図 2

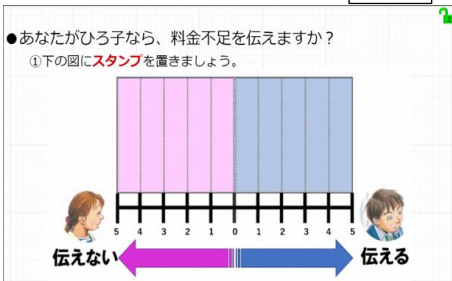


図 3

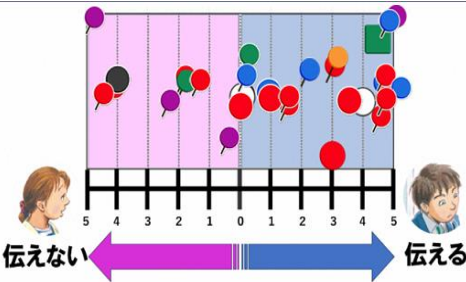
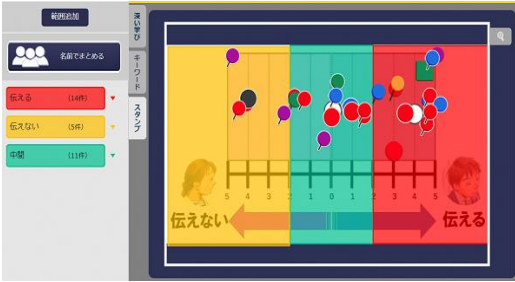


図 4



児童の様子

○事前アンケートの結果が「わくわくの実」で提示されたことで、授業のテーマについて興味をもち、授業に臨んでいた。
○ほとんどの児童がタイピング入力できるようになっており、質問に対して考えたことをスムーズに入力し、互いの考えの違いを把握することができた。その違いから、友達の意見に関心をもって聞いていた。

成果

○導入で、事前アンケートの結果を簡潔に共有して本時のめあてに繋がられた。また、「主人公は料金不足を伝えるべきか」のスタンプ集計結果は、ムーブノートの「みんなの広場」に提出するまでは他の児童の考えが見えないため、周囲の意見に流されずに回答ができていた。その結果を電子黒板に映すことで、即時に友達の考えを知ることができ、それぞれの考えとその理由を話し合うことで、考えを深めることに繋がられた。
○タブレット端末はあくまでも一つの手段とし、45分間という限られた時間の中で発問を精選して実施したことで、授業の前後に「友達を大切にするとはい、どのようなことか」という軸をぶらすことなく考えさせることができた。

課題

○スタンプをその場で集計をして提示したが、少数派が1人になったクラスもあり、該当児童への配慮が必要である。
○道徳において、授業のねらいにせまるためには各活動時間の確保が必要であり、ICTの活用場面も精査が必要である。